

2nd Circular

2017年9月10日

*
* 第 19回東京科学シンポジウム *
*
* テーマ： 理性と希望の平和な時代を拓く *
* ー 反知性主義・分断・不公正とたたかう ー *
*
* 開催日時：2017年12月9日（土）～10日（日） *
* 開催場所：中央大学多摩キャンパス *
* 主 催：日本科学者会議東京支部 *

第 19 回東京科学シンポジウム 2nd Circular 発行にあたって

実行委員長 松永光司

いま日本と世界に大きな緊張が走っています。北朝鮮は8月26日の弾道ミサイル発射につき、9月3日には核実験を強行し、ICBM搭載可能な水素爆弾が完成したと発表しました。それは国連安保理決議や6カ国協議共同声明に違反する暴挙です。私たちは、平和と安全の重大な脅威をもたらすこの暴挙に厳重に抗議するものです。

米朝両国間で非難と軍事的挑発の応酬がつづいており、「双方が互いの対応を見誤って、不測の事態を引き起こす可能性さえ、現実味を帯びつつある」（東京新聞9月4日）と憂慮されています。国連安保理議長声明（8月29日）が「対話を通じた平和的且つ包括的な解決を」と提起しているとおり、米朝両国は軍事的挑発を中止し、危機的状況打開のための直接対話を直ちに開始すべきです。日本政府は「対話のための対話は意味がない」と対話を否定していますが、万が一にも軍事衝突が起きれば甚大な被害が日本を含む広大な地域に及ぶことは明らかです。日本政府には理性に基づいて米朝両国に直接対話と呼びかける外交努力を尽くすよう強く求めるものです。

東京科学シンポジウムは、こうした大きな緊張の情勢のもとで準備が進められています。今回の東京科学シンポジウムのメインタイトルとして「理性と希望の平和な時代を拓く」を掲げましたが、いままさに理性を発揮して平和な時代を切り開くことが緊急で切実な課題となっています。

第19回東京科学シンポジウム実行委員会の呼びかけに、多くの支部会員が応えてくださり、分科会設置申し込みは21件に及び、2つの特別報告、3つの展示、プレ企画も検

討されています(9月3日現在)。その内容は、国際平和と人権、安倍改憲阻止の運動、国民生活向上の経済運営、憲法を基本とした教育再生、エネルギー問題、震災復興、首都圏防災、科学・技術の現状批判、軍事研究問題、院生若手の活動、平和と女性研究者、原発問題を考える文学サロン、非正規労働問題、豊洲移転問題などなど、たいへん多彩です。そして全体として、今日の国民的課題、学術的課題を見据え、安倍政権下に蔓延する反知性主義、分断・社会的不公正と正面から対峙し、変革の道を探究しようとする姿勢にあふれています。これから分科会における発表者の公募が始まります。みなさまにはぜひ積極的に応募していただきたいと思えます。

これらの分科会を充実した内容で実現させ、第19回東京科学シンポジウムが今日の課題に応える実り豊かな結果を収められるように、会員外の方々とも協力して取り組みを大きく広げましょう。(2017年9月6日)

1. 特別報告 <依頼中>

栗田 禎子(千葉大学)

浦田 一郎(一橋大学名誉教授)

2. 分科会

【1】分科会名:国連平和への権利宣言とわたしたち

設置責任者:前田朗(東京造形大学)

連絡先:maeda@zokei.ac.jp

設置主旨:2016年12月、国連総会は平和への権利宣言を採択した。賛成131、反対34、棄権19であるが、主な反対はアメリカ、EU諸国、日本である。平和への権利宣言を求める国際社会の運動は2006年にスペインのNGOによってはじめられ、国連人権理事会で議論が始まった。日本のNGOも早い段階からこれに加わり、国連及び日本国内で平和への権利の普及に努めた。笹本潤・前田朗『平和への権利を世界に』(かもがわ出版)。また、2017年7月、国連総会は核兵器禁止条約を採択した。ここでも日本政府は反対したが、日本のNGOは条約採択に向けて努力を積み重ねた。同宣言と同条約の採択を求めたNGOに研究者及び活動家として参加した報告者が、宣言及び条約の意義や今後の国内での取り組みの課題について論じ、意見交換を行いたい。

【2】分科会名:リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part2)

設置責任者:長田好弘(JSAリニア研究会)、中野貞彦(同)、橋本良仁(同)

連絡先:s.nakano@d012.dant2.jp

設置主旨:JSAは「リニア中央新幹線計画の撤回・中止を求める声明」発出(2014年7月)以後、大小の

研究会・シンポジウムを開催し、あわせて市民運動・学習活動、「ストップ！リニア訴訟」に寄与し、第48回定期大会(17年)で「リニア中央新幹線問題研究連絡委員会」の設置を決定し、活動の継続発展を図ることとした。4回を重ねた「ストップ！リニア訴訟」の口頭弁論、多くの地域の市民運動の経験、無謀に強行する建設工事などから、新たに、環境問題、水資源問題、安全問題(工事、生態磁気影響、火災、耐震性、避難方法、等々)、日常生活に与える被害(騒音、振動、微気圧波、景観、等々)が深刻な問題として提起され、計画のずさんさもあらわになっている。本分科会ではこれらの問題解明と経験交流を行う。

【3】分科会名:原発問題を考える文学サロン

設置責任者:風見梢太郎(作家 武蔵野通研分会)

連絡先:kazami@big.or.jp

設置主旨:福島第一原発の過酷事故から六年半がたちますが、汚染水問題ひとつとっても収束からはほど遠い状態です。また、高線量地域の強引な避難指示解除と賠償打ち切り、各地の原発の再稼働など許し難い施策が次々と打ち出されています。この分科会では、ノーベル文学賞を受賞したスベトラーナ・アレクシェービッチの『チェルノブイリの祈り』をはじめ、最近書かれた原発に関わる文学作品を元に、原発の廃止に向けて文学に何ができるかを探りたいと思います。前回、前々回と同様に、関心のある方々が自由に交流できるサロン形式にしたいと考えています。

【4】分科会名:院生・若手小さな冬の学校

設置責任者:佐藤和宏(大学問題研究会)

連絡先:Kazuhiro_sato2016@yahoo.co.jp

設置主旨:本分科会では、院生・若手を中心とした研究交流を行う。近年、分会+院生幹事会+研究会・読書会という3層の取り組みが行われているが、修論報告を除いて研究報告の機会は意外と設けられていない。分科会では、数人の研究報告+議論を行うことで、専門性を軸にしつつも大学や分野を超えた研究交流を行いたい。春の学校や夏の学校ほど大規模でないにしても、このような研究交流の機会を設けることに取り組んでいきたい。

【5】分科会名:パリ協定とエネルギー基本計画

設置責任者:石綿勇(武蔵野通研分会)、佐川清隆(東大院生分会)

連絡先:isiwata.isamu@silver.plala.or.jp

設置主旨:2016年発効のパリ協定は、21世紀の後半には人間による温室効果ガス排出量を正味ゼロにするという野心的な道を提示した。ところが米トランプ政権は6月パリ協定離脱を表明した。反知性主義の地球環境版とも言える。だが世界では、仏・英が相次いで2040年までにエンジン車の新車販売禁止宣言をしたり、2050年までに再生可能エネルギー100%を目指す国や自治体が増え、パリ協定実施に向けて動き出している。また脱原発の動きも進んでいる。しかし、日本では原発・石炭火力依存を維持するエネルギー基本計画が再度作られようとしている。こうした、エネルギーを巡る激動の世界と日本のエネルギー転換の道筋を議論したい。

【6】分科会名：首都圏の防災・減災を考える

設置責任者：中山俊雄(土研分会)

連絡先：otto.nakaya@gmail.com

設置主旨：2011 年東日本大震災による避難民数は、今なお(2017 年 7 月現在)約 9 万人と言われている。2015 年常総水害、2016 年熊本地震災害、2017 年北九州豪雨水害と、日本各地で起きる災害で新たな被災者が増えている。現行の被災者生活再建支援法の対応だけでは、限界にあることが明らかになってきている。一方、首都圏では、想定直下地震による直接被害だけで死者数約 1.8 万人、負傷者 11 万人、要救助者 7.2 万人と推定されている。これらの数値から見ても、被災者全体は膨大な数になり被災者生活再建支援法が機能しないことは明らかである。これまでの災害事例をもとに、首都圏の防災・減災問題を考えたい。

【7】分科会名：「復興」を考える

設置責任者：吉村さくら(Post3.11 研究会)

連絡先：natsume1905@gmail.com

設置主旨：東日本大震災から 6 年が経ちました。「復興」という言葉によって福島が虚飾され、福島県住民の帰還が強制的に進められました。しかし帰還率が低くとどまっています。本分科会では、若手・院生の報告を中心に、原発事業に関わる業界や制度の実態、再生可能エネルギーの展望、被災地産食品の安全、被災者の生活保障の実態、3.11 後の安全と安心について取り上げます。もう一度被災地の現状を知り、これからどうやったら本当の「復興」を遂げることができるのかを一緒に考えていきましょう。

【8】分科会名：核兵器禁止条約の意義と今後の課題—市民社会の役割に焦点をあてて

設置責任者：梶原渉(個人会員)

連絡先：kajyan@antiatom.org

設置主旨：2017 年 7 月 7 日、国連交渉会議で核兵器禁止条約が採択された。最も残虐で非人道的な大量破壊兵器である核兵器が、72 年前に広島と長崎で使用されてからついに違法化された。禁止条約採択の力となったのは、その条約前文に二度も語句が出てくる「ヒバクシャ」をはじめ、核兵器の非人道性をねばり強く訴えてきた市民社会の運動である。条約ができた現在、条約交渉に参加しなかった核保有国やその同盟国を加入させることが重要である。このためには、これらの国々の市民社会の運動が死活的な役割を果たすべきことは論を待たない。被爆国日本の運動も然りである。本分科会では、「核兵器のない世界」を真に実現する上での課題と展望を探るため、市民社会や、その中での科学者運動の役割について議論を深めたい。具体的には、核兵器の非人道性についての証言、「核兵器のない世界」をめぐる情勢と運動についての総論、禁止条約の国際法的検討、科学者による反核運動についての個別報告をもとに議論する予定である。

【9】分科会名：次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者 Part2

設置責任者：中島明子(J分会)

連絡先：mamanotanuki@yahoo.co.jp

設置主旨：前回の東京科学シンポジウムでは、「戦後70年」の年に平和を考える分科会を、女性会員が発案して行いました。そこでは、平和とジェンダーをめぐって、戦争遺跡・音楽・哲学・性的マイノリティ・学生運動の視点からの問題提起がなされました。それから2年、貧困、格差、差別、ブラックな働き方、戦争法、共謀罪法、軍事研究の推進など、人々の分断と差別を生む社会的問題と施策の拡大は止むことを知りません。平和な社会を形成するためには、人々の差別・分断を許さず、誰もが人間らしく生きられる共生社会の形成が不可欠です。今年の方科会でも前回に引き続き、学問・研究・教育・生活の場から、共生社会にとっての課題や展望について議論したいと思います。

【10】分科会名：科学・技術の現状批判 —日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part-11

設置責任者：長田好弘(武蔵野通研分会)、酒井士朗(同)

連絡先：ssakai@jcom.home.ne.jp

設置主旨：安倍政権は、大地震・火山噴火・豪雨などの大災害、輸送・電力・通信などライフラインの事故多発、コンピュータ技術やインターネットなどを利用したハイテク犯罪への対応はまるでそっちのけで、軍需産業の育成・国家安全保障上の諸課題(特に軍装備の高度化)へ向けて研究者の思想動員に血道をあげている。このような現状の打開のために、私たちは、科学・技術の現状、そのグローバル化・ブラック化、研究者の社会的責任・役割、国民となすべき対話などについて、広く議論、交流する場としたい。

【11】分科会名：軍学共同への抵抗の現段階とこれから —日本学術会議の新声明を受けて—

設置責任者：多羅尾光徳(東京農工大学)

連絡先：tarao@cc.tuat.ac.jp

設置主旨：軍学共同が人口に膾炙するようになり、この問題が世間の耳目を集めるようになっていく。3月には日本学術会議が「軍事的安全保障に関する声明」を発表し、科学者がこの問題について議論を続けていくことが呼びかけられた。本分科会では軍学共同をめぐる議論をふりかえり、今後の取り組みについて意見を交わす。

【12】分科会名：「安倍改憲」、その本質・波及追及と改憲阻止運動の課題

設置責任者：金子勝(立正大学分会)、中野貞彦(武蔵野通研分会)

連絡先：s.nakano@d012.dant2.jp

設置主旨：安倍首相は、憲法記念日の5月3日を選んで、2020年に自衛隊を明記する新しい憲法の施行を、と表明。自民党・憲法改正推進本部は、6月6日に会合を開き、「自衛隊の明記」、「教育の無償化」、「緊急事態条項」、「参院選挙区の合区解消」を例示した。8月3日の内閣改造後に、安倍首相は「スケジュールありきではない」と発言したが、憲法改正推進本部の中枢を側近で固める人事を行い、あくまで自民党改憲案を秋の臨時国会に提出する準備をすすめている。第9条へ自衛隊を明記する自民党

改憲案の承認が実現すれば、戦争放棄・主権在民・基本的人権を柱とする憲法の体系が壊され、日本の国のあり方が根本的に覆される。「安倍改憲」の本質とその波及を分かりやすく示し、改憲阻止の運動のあり方、その運動の広げ方などを集中的に議論したい。

【13】分科会名:科学・技術サロン ―日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 10 ―

設置責任者:長田好弘(武蔵野通研分会)、松永光司(同)

連絡先:matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置主旨:安倍政権は、戦争法(安保法制)のもとで、研究者の思想的取り込みと大学・研究機関の軍事研究への動員を執拗にめざしている。学校教育法等の改悪などで研究・教育現場の状況悪化は著しい。中学教諭の57%が「過労死ライン」との報道もある。「戦争か平和か」の課題を鋭く映し出す時代状況である。敗戦後の知識人の議論をも教訓としつつ、現状におけるJSAの役割について議論を掘り下げる場としたい。

【14】分科会名:支部活動の拡大強化・活動活性化のために

～日本科学者会議50年の歴史から教訓を求めて～

設置責任者:松永光司(東京支部)、長田好弘(同)

連絡先:matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置主旨:本年発行の『東京支部創立50周年記念誌』では、東京支部の多面的な活動について、科学の創造と総合化、会員の要求にもとづく全会員参加の諸活動の追求、創造的な個人会員活動と分会活動の創設・活性化など、これまでの活動の教訓と今後の課題が提起され、真摯な議論が深められた。科学者運動の歴史的教訓とJSA活動の関係についての認識を深めつつ、これらの議論を一層発展させ、今後の支部活動活性化の基盤をいっそう強固にするため、実践に即して報告と議論を深めたい。

【15】分科会名:サイバー空間の平和利用のために

設置責任者:長田好弘(武蔵野通研分会)、矢作英夫(同)

連絡先:myahagi@viola.ocn.ne.jp

設置主旨:特定秘密保護法、通信傍受法、マイナンバー法、共謀罪法など一連の監視と情報統制のための法制度が施行・拡大されている。安倍首相は「防衛計画の大綱」の見直しを表明し、検討項目として弾道ミサイル防衛の強化や宇宙・サイバー空間防衛を挙げた。その後の「2プラス2」共同発表でも、安保法制整備を踏まえ、日本の役割を拡大して防衛力を強化する方針を明記した。国民生活におけるネット犯罪やウィルス被害など軽減・除去のための新技術開発と法整備等の改善が喫緊の課題である。同様に、サイバー空間の「戦場化」を許さない議論と運動がさしせまって重大となっている。本分科会の報告と議論をその一助となるように力を合わせよう。

【16】分科会名:IT技術と教育・労働・社会生活 part 5

設置責任者:酒井士朗(武蔵野通研分会)、矢作英夫(同)

連絡先:ssakai@jcom.home.ne.jp

設置主旨:政府はビッグデータや IOT、AI などの活用による経済の効率化を成長戦略の柱と位置づけ推進している。IT 化による利便性と効率化が強調されるなか、生産と流通の場で広がる労働強化と事故の多発、マイナンバーなど個人情報の流出や監視カメラ・政府機関によるネット監視などへの不安、多発するネット犯罪、プライバシー侵害、歩きスマホでの事故や子どもとインターネットをめぐる問題などが顕在化している。本分科会は、各分野での IT 化の現状を批判的に検討、要求と実現の闘いの経験などを交流し、国民のための IT 技術の発達とその導入のあり方を考える連帯の場としたい。

【17】分科会名:暴走する安倍教育行政ストップ、憲法を基本にした教育再生を!

設置責任者:川田奈々絵(個人会員)、小嶋茂稔(東京学芸大学分会)

連絡先:kakoji@jcom.home.ne.jp

設置主旨:安倍政権は 2006 年、1947 年の教育基本法を改悪し、2013 年戦後教育体制を解体する「教育再生実行会議」を発足させた。2015 年の戦争法による「戦争する国」づくりと表裏一体で、道徳教育の教科化、教育勅語使用についての閣議決定、歴史認識をゆがめる教科書検定、などなど、矢継ぎ早に教育行政「改革」をすすめている。憲法を生かし、子供たちが「市民として成長し、発達し、自己の人格を完成するための」教育を実践し、努力している多くの教職員がいる。安倍教育行政暴走をストップさせるために、論議と交流をすすめたい。

【18】分科会名:築地市場の豊洲移転 築地市場存続の意義と豊洲市場移転のデメリット

設置責任者:石渡真理子(ミズ分会)

連絡先:i-mariko@jcom.home.ne.jp

設置主旨:築地市場の豊洲移転中止をめざして、その根拠を多角的に明らかにする

- 1) 豊洲市場の実態(汚染の実態、作業環境の問題など)
- 2) 豊洲移転策への多角的批判(豊洲移転がすすめられた背景、小池知事の移転策の問題点、など)
- 3) 国民の食の安全・安心を守る市場とは

【19】分科会名:国民生活向上の経済運営はいかにあるべきか

設置責任者:米田貢(中央大学分会)

連絡先:myoneda@tamacc.chuo-u.ac.jp

設置主旨:新自由主義的経済運営の完成版というべきアベノミクスが実施されて 4 年半余り、大企業が最高益をあげごく一部の富裕層が株高を歓迎する一方で、大多数の勤労国民の生活は崩壊の瀬戸際にある。憲法九条の明文改憲を意図する安倍内閣に対して、多くの国民は九条に象徴される平和主義と立憲主義を守り発展させる固い意志を示している。これと比較して、労働者に犠牲を強いる(実質賃金の明確な切下げ)アベノミクス、ひいては小泉構造改革以来の自民党などによる新自由主義的経済運営に対する勤労国民の包圍網はまだ十分に構築されていない。経済運営の基本目標を大企業の利益拡大

から国民生活の向上に根本的に転換するとはどういうことなのか、それはいかにして達成しうるのかを、経済理論と労働と生活擁護の実践の双方の視点から再検討する。すべての勤労市民が8時間の労働で健康で文化的な「人間らしい」生活がおくれる日本社会の実現を考える。

【20】分科会名：非正規雇用問題を考える

設置責任者：衣川清子（個人会員）

連絡先：kinu_k716@yahoo.co.jp

設置主旨：日本の労働者全体に占める非正規雇用労働者の割合は1984年の15.3%から2016年には37.5%へと激増し（厚生労働省試算）、非正規雇用の不安定性、低賃金、劣悪条件はいまや社会問題となっている。そうした状況の中で雇用安定のために改正された労働契約法が、趣旨と逆行する無期契約転換直前の雇止めを発生させて大問題となった。現状の改善のために何をどうすべきなのか、諸分野からの報告に基づいて考えたい。

【21】分科会名：大学問題

設置責任者：中嶋哲彦（名古屋大学）

連絡先：19th-kagaku@jsa-tokyo.jp

3. ポスターセッションの募集

統括設置責任者：日本科学者会議東京支部事務局

設置主旨：東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

4. 展示（シンポジウム期間中開催）

【1】日中友好と歴史認識のための展示 <依頼中>

【2】日本・キューバ友好の展示とイベントーキューバに関する知見や文化を紹介！多面的にキューバを体験してください！

【3】日本と朝鮮半島の友好のための展示 <依頼中>

5. プレ企画イベント

今回も、「東京科学シンポジウム記念囲碁大会」を計画しています。

前回と同様、囲碁プロ棋士を招いた指導碁もあります。詳細は検討中。

6. 分科会の設置/分科会発表募集と予稿の提出

新たな分科会設置申込みも下記期限内において受けつけます。

設置責任者は、分科会への発表論文応募を積極的に働きかけ、期限を厳守してください。

①各分科会への発表申込み

原則として電子メールで申込み下さい。申込み用紙は日本科学者会議東京支部ホームページに (<http://jsa-tokyo.jp/>) にあります。Fax、郵送も受け付けます。申込み用紙は次頁にあります。

申込先: 19th-kagaku@jsa-tokyo.jp 「第19回東京科学シンポ実行委員会」宛

発表申込の締切日: 10月10日(火曜日) <厳守>

②予稿の提出

予稿は、A4判2ページ以内で、テンプレートで形式を統一します。(原則としてWord使用)統一形式のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。

送付先: 19th-kagaku@jsa-tokyo.jp 予稿ファイルをメールに添付下さい。

予稿の提出締切日: 10月31日(火曜日) <厳守>

7. シンポジウム会場&懇親会

会場:中央大学・多摩キャンパス(東京都八王子市東中野742-1)

詳しくは <http://www.chuo-u.ac.jp/access/tama/> を参照下さい。

懇親会:12月9日(土)17時30分～ 中央大学・多摩キャンパス

8. 開催日程 (会場の都合で一部変更となる場合があります) ・ 参加費

12月9日(土)	09:30～10:00	受付
	10:00～12:15	分科会1
	13:00～17:00	特別報告
	17:30～	懇親会
12月10日(日)	10:00～12:15	分科会2
	13:00～15:15	分科会3
	15:30～17:45	分科会4

	参加費	懇親会費
一般	2,000円	3,000円
院生・学生	1,000円	1,000円

※会員・非会員の区別はありません

※参加費には予稿集代を含みます

第19回東京科学シンポジウム 分科会発表申し込み用紙

2017年__月__日 (受付番号_____)

名 前(ふりがな)	()
住 所	〒
連 絡 先	TEL : E-mail :
希望分科会名	
タイトル	
著 者 名 (所属 or 肩書き)	()

概 要 (200字~400字)

--

(注) 原則としてeメールで申込みください。上記書式を用いず、必要事項を明記したtext送信も可。
必要事項：申込者氏名(フリカナ)・住所・連絡先(電話, e-mail)・発表希望分科会・論文題名・著者名・
 所属 or 肩書き・論文概要(200~400字) (eメールが不可能な場合、郵送・Fax申込みも可)

第19回東京科学シンポジウム実行委員会

石渡真理子(支部代表幹事)、長田好弘(支部代表幹事)、葛西洋平(支部常任幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、佐川清隆(支部事務局次長)、佐藤和宏(支部常任幹事)、土肥有理(支部常任幹事)、中島明子(支部幹事)、中野貞彦(支部常任幹事)、新井田智幸(支部幹事)、○真嶋麻子(支部事務局次長)、松尾一郎(支部常任幹事)、◎松永光司(支部事務局長)、吉沢壮二郎(支部幹事)

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

日本科学者会議東京支部 第19回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル9階

Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 19th-kagaku@jsa-tokyo.jp